

描く

建築家・甲斐大器の視点

甲斐 大器 [大敷網]

描くという方法がなかったら、おそらく私は、ものづくりを始めていません。建築を始めていません。

「描く」という行為は想像の端緒として記憶の倍增方法として意思伝達的手段として感動の触媒として対象とのコミュニケーションの手段として時間を思い出すための記録として私は意識せずに描いてきました。

共通して言えることは、この「描く」という行為は楽しいということです。

私にとって描くとは、無くては私として成立し得ない大切な行為です。背が高いとかきれいな顔をしているとかその人のキャラクターを成す要素と同じように「描く」という行為が存在していると感じています。

ですから、今回の個展では、私が描いたものたちを見てもらい、私の一部とまで言える「描く」という行為自体を見て頂き、みなさまに何かを感じて頂けたら幸いです。

甲斐 大器

甲斐大器展「描く」

TAIKI KAI EXHIBITION

2018年9月29日(土)-30日(日)

10月6日(土)-7日(日)

時間 11:00 - 18:00(土)

11:00 - 17:00(日)

GALLERY
TEBU
KURO

甲斐大器、初の個展「描く」

建築家・甲斐大器は真摯な人である。常に考え、妥協しない。時には立ち止まり、そして確実に事を進める。その原点はどこから来るのか。

多分に彼の「描く」という一種の思考方法にあるのではないだろうか。仕事の打ち合わせ等で描かれるその絵を見る人は、皆魅入られるに違いない。それはアーティスト性ではなく、話す様に素早く描かれる、その絵自体の圧倒的な情報力である。その描く行為によって、相手に確実に伝えるとともに、描くこと自体で自身の考えをも高めていき、答えを見出していく。実に明快である。

おそらく建築家のドローイング展というのは珍しい。それは建築にとどまらず、旅先での風景や、集落、人物など多岐にわたり、この20年に描き残された絵は数千点にも及ぶ。独創的な作品で有名なエッシャーが幾何学や科学からのアプローチで細密な絵を描いた様に、甲斐大器は建築学的に対象物の構造をとらえ、感動的なまでの筆力により描いており、二人のアプローチは共通する物があるのではないだろうか。

今回、実物のスケッチブックを多数展示し、見ていただくことで、建築家・甲斐大器が何を見て、考え、感じてきたのか。この機会にぜひ体感していただければと思います。

ギャラリーTEBUKURO
代表 ミトンデザイン 岡 利貴

甲斐大器展「描く」

TAIKI KAI EXHIBITION

2018年9月29日(土)-30日(日)

10月6日(土)-7日(日)

時間 11:00 - 18:00(土) / 11:00 - 17:00(日)

